

第29期 第3回北九州市スポーツ推進審議会

- 1 開催日時 令和4年7月13日(水) 15:30～16:30
- 2 開催場所 市役所庁舎5階 特別会議室A
- 3 出席者 委員12名、事務局(北九州市)13名 計25名

【審議会委員】 磯貝 浩久(九州産業大学教授)
梶山 幹子(北九州市小学校体育連盟)
倉崎 信子(九州栄養福祉大学教授)
西東 大(NHK北九州放送局長)
酒井 孝子(福岡県女子体育連盟理事長)
塩川 久美(北九州市中学校体育連盟)
長戸 操(門鉄広告社代表取締役社長)
中山 育美(福岡県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会理事)
平野 月子(NPO法人北九州市レクリエーション協会理事)
眞鍋 厚毅(北九州市障害者スポーツ協会事務局長)
宮田 義高(公益財団法人北九州市スポーツ協会事務局長)
山本 浩二(北九州市立大学准教授)
※五十音順

【事務局】 柏井 宏之(市民文化スポーツ局長)
日々谷 健司(市民文化スポーツ局スポーツ部長)
大江 晃(市民文化スポーツ局スポーツ振興課長)
西村 猛(市民文化スポーツ局スポーツ施設担当課長)
森 善裕(市民文化スポーツ局マラソン担当課長)
井上 美紀(市民文化スポーツ局国際スポーツ大会推進室長)
山根 英明(市民文化スポーツ局国際スポーツ大会推進室次長)
ほか、市関係課から6名が出席

4 傍聴者 なし

- 5 議事 (1) 議題
①令和4年度主要事業について
②スポーツ団体に対する補助について
(2) 報告
①国際スポーツ大会等の誘致活動状況について
②お出かけ応援プレミアムサマーについて

6 議事内容

(1) 議題

①令和4年度主要事業について

事務局より説明を行い、下記のとおり質疑応答の上、原案どおり承認された。

委員A：市民参加型スポーツイベントの開催というところで、助成対象の団体がスポーツ協会、レクリエーション協会、スポーツ推進委員協議会の3団体となっているが、総合型地域スポーツクラブは、規模は小さいが各校区にそれぞれクラブがあり、一番地域密着型と思うので、参加型のスポーツイベント等を総合型地域スポーツクラブが開催するときも助成の対象とすることを検討していただきたい。

事務局A：総合型地域スポーツクラブに関しては、総合型地域スポーツクラブ連絡協議会のほうに、別途、支援事業として260万円の補助を行っており、その中にイベントを行う予算も含まれていると、ご理解いただきたい。

委員A：指導者養成講座の実施というところで、障がい者スポーツの指導者資格を取るときに助成をする等、指導者養成講座の中に障がい者スポーツの資格も入れてみてはどうか。

事務局B：今後、検討させていただく。

委員B：障がい者スポーツの指導員の関係について、日本パラスポーツ協会が各地域で初級・中級・上級というランクがあり、初級の養成講習会で資格を取った方は2年、3年の経験をしたうえで、次の中級・上級になっていくという形での障がい者スポーツ指導員の講習会を行っている。実際に、北九州市障害者スポーツ協会でも、1年に1回、毎年大体2月頃に初級講習会を実施している。ただし、ここ2、3年はコロナの影響で直前の中止を余儀なくされている。そのような形で、障がい者のスポーツ指導員の資格取得の講習会については、障害者スポーツ協会、パラスポーツ協会で行われている状況。

会長：指導者養成については、予算規模が全体的にみるとまだまだ少ないと思うので、前向きに検討していただきたい。

委員C：子どもたちの体力向上、全体的な運動能力の発達等を目的として、各学校に鉄棒等の遊具が設置されていると思うが、その数は各学校に何台とか決まりはあるのか。

それと、何校か拝見したときに、非常に充実した遊具が設置されている学校と、鉄棒だけしかない学校というように、学校によって格差がある

ように見受けられる。コロナで運動する場や遊ぶ場がないので、運動場というのはすごく大事な場所だと思う。学校によっては、運動能力発達の機会の提供がされていないのではと思うが、どのような状況か。

事務局C：施設面で言えば、学校毎にというのが現実ではある。様々な取り組みを教育委員会として、学校に提案しながら取り組んでいる。

委員C：これから少しずつ遊具や環境を整えていく方針はあるか。

事務局C：今のところ、教育委員会内でそのような話は上がっていない。

委員C：これから検討してほしい。

事務局C：はい。

事務局D：例えば、昭和から平成にかけてできた施設と、つい最近できた施設ではやはり明らかに施設が違って、不公平感というのは否めないということと、小学校でもすごく大きな学校と小規模校では遊び場の施設等の予算の付き方が違うと思う。子供たちの体力、運動というところに視点いただき、今日、持ち帰り、施設課とも話をして、子供の体力向上というところで考えて参る。

委員D：今のことに関して、鉄棒だけが学校にあるというのはまず考えにくい。ジャングルジム、肋木、登り棒、そしてその向こうに鉄棒がある。いきなり鉄棒を握らせるというのではなく、ジャングルジムの遊びから、肋木、登り棒、鉄棒というように段階を踏んで学校では指導をしている。施設なので老朽化してそれを撤去したとかいうことがあり、そのようなことになっているのではないかと思う。指導者がそういうところをしっかりと自覚して、学校側がしっかり要求し、そういう状況にしていけないといけないという風に思うし、広さや容量もあるため、全部が全部ということではないが、鉄棒に行くまでのセットは、以前は大概の学校で設置されていた。

委員C：校区にある大体300人くらいの小学校で、関わり始めて7年くらいになるが、その7年間、古い遊具が「危険」という張り紙をして、ロープを張り巡らせて「入ってはいけません」とした状態で、そのまま放置されている。そして、鉄棒だけが、運動場の隅に設置されている。そういう施設も一度、見に行っていたきたい。

②スポーツ団体に対する補助について

事務局より説明を行い、下記のとおり質疑応答の上、原案どおり承認された。

委員A：小・中学校に選手派遣補助、北九州の中学校が大きな全国大会に出場する機会が、多く見られる状況にある。色んな形で旅費が上がってきており、燃料費等も高騰している状況にあるため、どこかの機会に補助金の制度の検討をしていただきたいと要望する。

事務局A：意見として承る。

(2) 報告

①国際スポーツ大会等の誘致活動状況について

誘致活動状況について報告を行い、下記のとおり質疑応答があった。

委員A：京築地区で道路に自転車のマークが書かれているのは、令和5年度に予定されているツール・ド・九州の関係か。

事務局A：それは違うと思う。今のところコースにその方面は含まれていないようだ。ただ、今後、サイクルの競技の部分と、皆さんで楽しむ部分といった企画を合わせてやっていると聞いている。もしかすると、そちらのほうでコースに入って準備されている可能性もある。

委員A：規模は全国か、国際か。

事務局A：海外からのチームを招いての国際大会。

委員A：チームで参加するのか。

事務局A：はい。あとは、国際クラスでもいくつかグレードがある。どのくらいのグレードになるかはまだ決まっていない。

事務局B：一番有名なのはツール・ド・フランス。チーム毎で、チームと個人で争うものがある。そのレベルまではいきなりは難しいが、そういった類のレース。

委員A：専用コースも作るのか。

事務局A：はい。今、クリテリウムという小倉城を周回するコースは、エキシビジョン的なものであるが、今回、福岡ステージ、熊本ステージ、大分ステ

ージというものがある。福岡ステージでは、北九州市から大牟田市まで行くルートをコースとして作る。

事務局B：公道を走るレース。熊本はまた違った形のレースをする。

②お出かけ応援プレミアムサマーについて

概要について説明を行い、質問事項は無かった。